

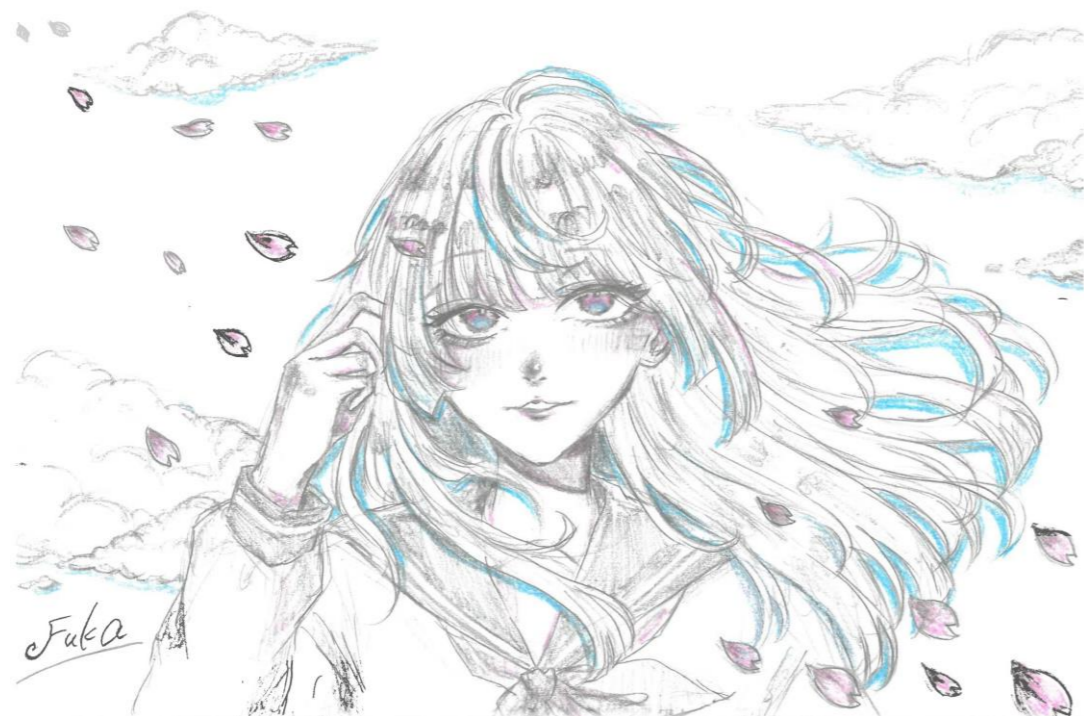
# 図書館通信



No.4 令和5年3月27日(月) 松山学院高等学校 管理部 図書・研修課 題字 田中由美 先生

## 春季休業中です

休みを利用して、本を読んでみませんか。



(イラスト：普通科 新3年 山崎 楓香 さん)

## 郷土の作家 大江健三郎 を悼む

今月3日、人類共通の普遍的なテーマを作品に込め、日本文学史上では二人目のノーベル文学賞を受賞した大江健三郎氏が、亡くなりました。同氏を悼み、その作品を振り返ります。

- ・『**万延元年のフットボール**』(四国の山村に戻った主人公が、安保闘争と曾祖父兄弟の関わった万延元年の一揆を通して、弟と自我を確認する。)
- ・『**銅育**』(芥川賞受賞作。閉鎖的な山村に墜落した米兵を捕虜として「飼育」する大人たちを、少年の視点から描いた。)
- ・『**ヒロシマ・ノート**』、『**沖縄ノート**』(核問題や文学者の政治的責任を考える。)
- ・『**「自分の木」の下で**』(「燃え上がる緑の木」第三部となる随筆。妻・大江ゆかりとの共著。二人の息子で、アーティストの光の現在も記した。)
- ・『**文学の淵を渡る**』(古井由吉との対談集。難解だと評された若い頃については、やや意図的に書いていたと、大江自らが語っている。)

特に2000年以降は次代を生きる人々に向けて、「今」を渡していくような作品が多いようです。

## 春休みに読んでもらいたい 本の紹介

### 三浦綾子 『母』

タイトルの「母」とは、プロレタリア文学の作家、小林多喜二の母セキのこと。

小林多喜二は昭和初期の世相を描いた作家で、その思想が当時の政府に認められず、弾圧を受けて命を失う。この本はそんな多喜二の生涯を、母セキが回想する形式となっている。

この本の第七章は、「山路越えて」という。セキが愛唱し、優しさや愛の糧としていた歌は、私たちにとってなじみの深い**讀美歌466番**だった。「山路こえて」で結ばれたこの学校に集うすべての人に読んでほしい1冊。

### ヨースタイン・ゴルデル 『ソフィーの世界』

ある日、ソフィーのところに手紙が届く。内容は「あなたはだれ？」というものだった。手紙をきっかけに、ソフィーは哲学についての知識を得て、自分を取り巻く世界について考えていくようになる。果たして謎の手紙の送り主は誰なのか。そしてソフィーはどこに導かれるのか……。

気がつけば誰もが哲学者の仲間入りを果たしている本。

### 読売中高生新聞編集室 『部活魂！この文化部がすごい』

各地の高校生が魂を込めた活動が記録されている。愛媛県からは、長浜高校の**水族館部**が紹介されている。

様々な文化に情熱を傾ける高校生たちの「魂」の記録が興味深い。全国には様々なことに、全身全霊で取り組んでいる高校生がいる。真剣かつ楽しそうな姿は、読む人の心を打つこと間違いなし。高校生の視点に立って構成されているので、読みやすいし、感情移入もしやすい。あんな部活動や、こんな部活動など、眺めているだけでも心が躍る。



(イラスト：普通科 新2年 薬師寺 治月 さん)

新しい生活を迎えるにあたって、懐かしい誰かに出会う読書という旅に出かけませんか。では、新学期に図書館でお目にかかりましょう。♡